

講義名	対)ボランティア入門			
担当教員	種田 成則			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>ボランティア（活動）とは、「市民の自主的な発意による無償の社会活動」と解され、従来は貧困や差別、あるいは各種福祉制度の改善や是正に向けた活動として行われてきた歴史がある。わが国では、先の阪神淡路大震災時の救援活動を契機に、ボランティア活動が広く社会に認識されるとともに、その社会的意義や役割がクローズアップされ、現在では多様な分野にボランティア活動が広がりを現している。</p> <p>そこで、ボランティアの歴史や地域での福祉活動、まちづくりや災害救援、企業の社会貢献活動など様々な活動を適宜紹介しながらボランティアについての理解を深める。</p>				
到達目標				
<p>ボランティア活動の基本理念を学び、活動が自分の身近にあること、少しの時間や努力、資金の提供などを通じて参加・参画できることを学び、自分と社会の関わりや協働の恩恵を自ら考え行動できるようになる。</p>				
提出課題				
<p>期間中に小テストを行う。</p>				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>小テストは授業に対する理解度を測定するために行う。</p>				
評価の基準				
<p>定期試験の成績を重視するが、小テストの成績も評価の対象とする。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、自分が感じ、考え、行動を始めるためのきっかけづくりである。 ・能動的な授業参加に際する学習はありません。 ・遅刻、途中退室、私語、携帯電話等は他者への迷惑行為であることを理解すること。そのことを理解できずそれらを繰り返す者には厳しく対処する。 				

教科書					
・ 使用しない。					
プリント資料及び参考文献					
適宜レジュメ、資料を配布する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション ボランティアとは・・・ 2 どのようなことがボランティアか、ボランティア活動の様々な分野 3 ボランティア活動の基本的な性格・自発性・公共性・無償性など 4 ボランティア活動の歴史 明治期から1970年代頃まで 5 ボランティア活動の歴史 1980年代から今日まで 6 ボランティア活動と法 社会福祉法とボランティア 7 ボランティア活動と法 NPO法とボランティア 8 NPOの現状と課題 9 ボランティア活動をめぐる最近のようす 10 ボランティア活動と地域・コミュニティ・ケアからノーマライゼーション、インテグレーション 11 ボランティア活動の地域づくり・まちづくり 12 ボランティア活動の推進と課題 13 ボランティア活動と地域福祉-あらためて「地域とな何か」を考えてみる 14 今日のボランティア活動-被災地を支援するボランティア活動 15 まとめ 					
授業形態（アクティブ・ラーニング）					
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A/L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）					
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>学則上、2単位を修得するためには15回の授業と、1回の授業に対して、4時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。したがって、日頃から新聞の購読、テレビのニュースや報道番組の視聴、インターネットの閲覧を通じてボランティア活動をはじめ地域の現状や様々な活動のようすについて調べておくこと。また、授業後は配布された資料、自身のメモ等をもとに知識を整理し、要点をまとめて理解を深めること（2時間程度/週）</p>					
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<p>この科目の到達目標は流通科学大学の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力の「知識を知恵にする転換することができる、論理的思考力をもった人材」の要素としての情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力と関連している。</p> <p>さらに「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」「自主・自立の精神を持った人材」とも関連している。</p>					
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述					
実務経験の有無及び活用					
備考					
<p>一時的に通学困難者となった場合は対面授業の中での対応とし、オンデマンド授業で代替は行わない。</p> <p>対面授業とオンデマンド授業の進行スピード、課題内容が異なることがあるので、オンデマンド授業者の情報は参考にならないこと。</p>					